

Q1 牛の病気である BSE とヒトの病気である vCJD との関連について、教えてください。

BSE と vCJD は、いずれも異常プリオンたん白質が原因とされる脳がスポンジ状になる伝達性海綿状脳症 (TSE) の一つであり、1996 年 3 月、英国においてこれらの関連の可能性が発表されました。現在でも、直接的な科学的根拠は確認されていないものの、vCJD の発症の原因は BSE の異常プリオンたん白質の摂取と関連すると考えることが最も妥当とされています。英国等では、食肉加工の段階で機械を用いて回収された肉 (機械回収肉 (MRM)) に異常プリオンたん白質が存在しうるせき髄等が混入することも、vCJD の発生要因であるとの報告が出されています。

実際に、英国における BSE 発生頭数は約 18 万頭 (2011 年 1 月時点)、vCJD 患者数は 174 人 (2011 年 1 月時点, うち 3 人は輸血が原因と思われる者) であり、世界全体における vCJD 患者 (222 人) のほとんどが英国に集中しています。なお、日本における BSE 発生頭数は 36 頭、vCJD 患者は 1 人報告 (2011 年 1 月時点) されていますが、vCJD 患者については、英国滞在時の曝露の可能性が現時点では有力と考えられています。

世界の BSE 発生頭数及び vCJD 患者数 (BSE: 頭、vCJD: 人)

	国名	BSE	vCJD
(1)	英国	184,607	174
(2)	アイルランド	1,647	4 ^{※2}
(3)	ポルトガル	1,069	2
(4)	フランス	1,015	25 ^{※3}
(5)	スペイン	760	5
(6)	スイス	464	—
(7)	ドイツ	419	—
(8)	イタリア	144	2
(9)	ベルギー	133	—
(10)	オランダ	86	3
(11)	ポーランド	69	—
(12)	日本	36	1 ^{※4}
(13)	チェコ	30	—
(14)	スロバキア	24	—
(15)	デンマーク	16	—
(16)	カナダ	19	1 ^{※4}
(17)	スロベニア	8	—
(18)	オーストリア	7	—
(19)	ルクセンブルグ	3	—
(20)	リヒテンシュタイン	2	—
(20)	アメリカ	2 ^{※1}	3 ^{※5}
(22)	フィンランド	1	—
(22)	ギリシャ	1	—
(22)	イスラエル	1	—
(22)	スウェーデン	1	—
	サウジアラビア		1
	台湾		1

出典) BSE 発生頭数については、OIE (国際獣疫事務局) (2011 年 1 月 20 日時点; なお英国のデータは 2010 年 10 月 7 日時点)、日本については 2011 年 1 月 24 日時点。

vCJD 患者数については、Department of Health (英国保健省) (2011 年 1 月時点) 等 (日本のデータは 2011 年 1 月 24 日時点)

なお、表中の"—" は、vCJD の報告がないことを示す。

※1 OIE の統計によると、2003 年 12 月に報告された米国での発生例はカナダから輸入された牛であるため、カナダの発生頭数にカウントされている。

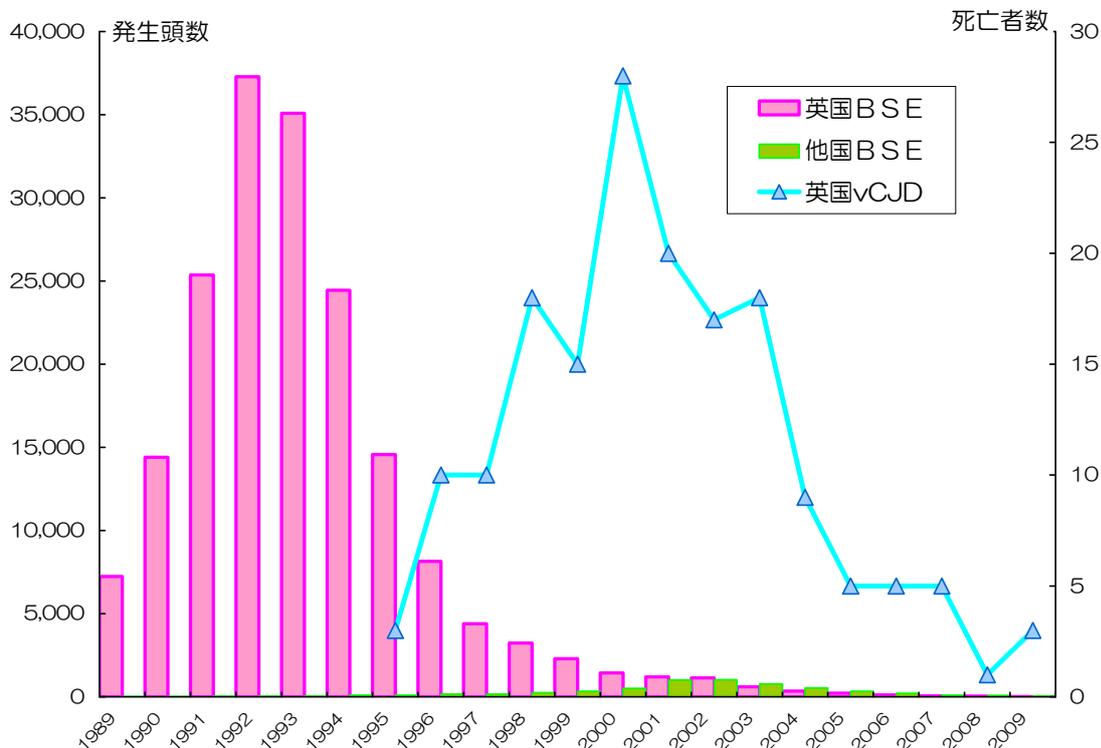
※2 うち 1 名は英国滞在歴のある患者。

※3 うち 1 名は英国滞在歴のある患者。

※4 英国滞在歴のある患者。

※5 うち2名は在米英国人、1例は在米サウジアラビア人。

牛海綿状脳症(BSE)発生頭数と変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)による死亡者数の推移



出典) Department of Health (英国保健省) (2011年1月)、日本のデータは2011年1月24日時点

*vCJD患者のうち、2011年1月現在、5人が生存

*英国以外のvCJD症例数 アイルランド 4名^{注1}；フランス 25名^{注2}；イタリア 2名；
ポルトガル 2名；カナダ 1名^{注3}；日本 1名^{注3}；オランダ 3名；アメリカ 3名^{注4}；スペイン 5名；
サウジアラビア 1名、台湾 1名

注1) うち1名は英国滞在歴のある患者

注2) うち1名は英国滞在歴のある患者

注3) 英国滞在歴のある患者

注4) うち2名は在米英国人、1名は在米サウジアラビア人